

1 社会的経済という経済体制は可能である

私は経済体制論をライフワークとしてきましたが、リーマンショックの後から欧州「社会的経済」を基礎とした社会を世界がめざすべき新たな経済体制として考えるようになりました。社会的経済という用語は日本ではほとんど知られていませんが、今後急速に広がるでしょう。一国での経済体制としては世界のどこにも社会的経済は実現されていませんが、各国の社会的経済を総合すると経済体制としての姿が見えてきます。またこの社会的経済の価値観は資本主義経済体制の価値観とは根本から異なるために、社会的経済は新たな文明の出発点だと考えられます。この新たな経済体制の概略といかにして実現するかについて素描してみたいと思います。

新たな経済体制としての社会的経済のキーワードは「連帯」です。連帯という用語は日本ではあまり使われませんが、欧州では社会的経済の分野でも使われており、モンドラゴン協同組合やイタリア協同組合では、連帯は参加、民主主義、公正などの理念・価値観につながる用語として、また連帯はこれら価値観を実現する原則、制度、法律につながる用語として重要な意味を持っています。この双方が経済体制を実現するのです。

現代資本主義には自由競争を重視する前提がありますが、社会的経済は競争よりも「協力」を重視します。新たな文明にはこの競争社会から協力社会への移行が含まれます。また社会的経済は「公正」という価値観を重視し過大な報酬格差を認めません。市民が助け合い協力し合う連帯から社会的経済が始まったからです。そのため1人1票の民主主義が重視される協同組合が株式会社にとって代わることになります。株式会社はいずれ人類社会の博物館に行くことになるでしょう。実態調査すればわかるように、世界的なマーケットシェアを実現している製造業の労働者協同組合は沢山あります。連帯という仕組みで効率を実現することが可能なのです。私はこれを「連帯システム」と呼んでいます。

2 人と人、組織と組織を横につなぐ

上述したように日本では社会的経済とは何であるかがほとんど知られていませんが、構成員である非営利組織は全国の都道府県どこでも存在します。また新たな文明の基礎になる「協力しあう」という連帯の価値観は、地域の課題を市民が協力し合って解決するという形で全国どこにでも見られます。これらを前提に私は次のようなネットワークによる社会的経済をめざす構想を考えました。

これはネットワークで人と人、組織と組織を横につなぐのが基礎となる考え方です。ネットワークは3段階で考えます。市町村など人々が生活する生活圏での「地域ネットワーク」が第1段階です。非営利組織が多い都道府県段階の「広域ネットワーク」が第2段階です。広域ネットワークのネットワークとしての全国ネットワークが第3段階です。これらネットワークは、各段階内部でのネットワークとその拡大、及び各段階をつなぐネットワークに分けることができます。人々や組織がはまだ横につながっていないネットワークゼロの第1段階や第2段階もありますが、第1段階と第2段階が融合しているネットワークもあります。ネットワークは、情報共有・価値観共有から事業連帯に至るまでさまざまな結合の仕方につながります。ネットワークを連帯のレベルに到達させる工夫が必要です。

3 新たな社会をめざすシンポジウム

各地の広域ネットワークが集まって第1回目シンポジウムを2017年3月に大阪で開催することが決まりました。主催団体は大阪労働学校・アソシエ、共催団体はソウル宣言の会・関西で、パネラーは新潟県及び東海3県（愛知、三重、岐阜）及び近畿2府4県（大阪、京都、滋賀、奈良、兵庫、和歌山）の広域ネットワークから招きます。このシンポジウムを出発点として、全国ネットワークの実現をめざして運動を拡大していきます。